
あなたに会えて・・・

ナカヌキヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたに会えて・・・

【Nコード】

N5114Z

【作者名】

ナカヌキヤ

【あらすじ】

弱虫の女の子…

あたしがあつた少年のおかげで変わることができたんだよ？

あなたはあたしの生きる勇気をくれたんだ…。

出会い（前書き）

あたしは…この世から消えるつもりだった…
…消えないといけなかつた…
なのに…なのにそんなあたしに

『オメエーが消えて誰がうれしいんだ??！それにな、誰も喜ばねえーんだよっ！
それどころかっ！
…！！！！』

そう。あなたに出会ってからは…あたしが少しだけ変わったの…

出会い

くっ 苦しい……

「さつさとアイツ捕まえるっ」

ぎゃああああっ

怖い…… すっごい怖い先輩が追いかけてくるう……！

「早く捕まえるっ！」

こんなことなら見つからなければ良かったよお

ドンッ

「いた〜いつ」

誰かにぶつかっちゃった。

「チッ」

……え？…… ええっ???!

「南波レン……」

「あ？ダレだおめえ……」

ぎゃああああっ………！！！！

本物のナンバ……レン……。

ここで記憶が途切れた……

あたしさつき怖い先輩に見つからなければ南波先輩にも会わなかったのに……

最悪……南波レンに会うなんて……

そう。『南波レン』この人はこの学校で一怖い悪魔……あ、間違えた。学校一怖いお方なのです。

あ、もしかしたら世界一かもしれない……。

……それは……ないかなあ……。
な〜んてね………

ああそういえば、顔はかつこいと皆に騒がれてた言われてた気がする…。

次に目を覚ましたのが保健室で

「頭が…痛い…」

目の前で悪魔：いや、怖いイケメン様が笑いながら

「だろうな、おめえー階段を頭から転落したぞ」

怖い…怖い先輩方よりも…悪魔の方が怖い…。

「あ…くま？」

「ああ？」

ひええー…

今あたし南波先輩に悪魔言いつた!!!

自分の

「バカやるー…」

南波先輩に…発くらわせてしまった…。

「ああ？んだとお？何様だおめえー…俺様を殴るとはいい度胸じゃねえーか…」

いやあ…

「ごめんなさいい！」

泣きながら南波さんになすりついた。

もうっあたしのバカバカバカあーっ

ってか、まず悪魔の南波先輩になすりついている次点でいけないと思うよっ。うんっ。

「なあ…」

「はい…。…なんでしょうか？南波先輩…」
鼻をすすりながら聞いた。

「俺って怖いのか？」

「え？」

「立花ユカは俺のことどう思うんだ？怖いかな？」

なんで南波先輩はあたしの名前知ってるんだろう？

それよりも『怖いかな？』って、何が言いたいんだろう？

「なあ…ユカは俺が怖いのかな？」

南波先輩は今にも泣きそうに濡れそうな目であたしの方を見つめて
そう言った。

「南波…せんぱい…？」

「…いや？なんでもねえー」

突然コロツつと表情が変わったから逆にびっくりして

「…そうなんですか？」

あたしはそれしか言えなかった。

南波先輩は『ああ』と一言だけ返事を返してきた。

そうしたら今度は楽しそうな顔になって…

先輩って何がしたいのかわかんないなあ。

「あの…？南波先輩…？」

「レン」

「…え？」

「ユカは俺を『レン』と呼べ。いいか？命令だ。」

なんでここで命令なんだ？

そう聞こうと思ったけれど悪魔に勝てる訳がないから

「…レン先輩…？」

言うことを利いてやることにした。

「いや。『レン』だ」

はあ…なんでこの悪魔は命令口調なんだろう…？

なんてことを思ったところでどうにもならないから、

あたしはなんで名前を知っているのかを聞こうと思った。

「あの？レンせん…レン」

「なんだ？ユカ？」

レンがベッド隅に腕を乗せて楽しそうにしかもにこやかに…

それがまるで子猫の様な顔で笑うから…あたしも思わず微笑んだ。

本当は何かを言おうと思ったのに…レンが優しく『ユカ』なんて言うからまた…意識がぶっ飛んだ。

「ああ？ユカ起きたか？」

ガタガタガツタン

びっくりしたっ！！！！

「なんでソファから落ちてんだよ」

笑いながら言われたってえ…あと10センチもあればキスだったよ？

あたし恋人いない暦17ですよ？

キスしたことすらないんだからっ

びっくりするもんだってえ〜の！！

……っつか…ここどこよ？

「あ？どこかかって？」

何も言っていないのになんでわかんのか？？！

「倉庫だ」

倉庫？？！

え？なんか変なことされんの？？！

「…アホかユカは…手なんか出すかっつーの…」

……なんでこんなに思ってる事がわかるの？

「あ？だつて俺総長だからな、これぐらいわかんねーとなあ」

「…ん？意味わかんない…」

「そういうと思っただよ」

その後すぐにレンは

「今度おめえーを特別暴走に連れてってやる」

……なーんて事を言いよった…

その後レン殿に『ソファに座れ』と命令された…

…だから、ひとまずソファに座った。

一つ疑問に思ったのがあたしの横にさつきからいる…いや？いらっ
さるお方…

いつからかはわかんないけど…ずっとクスクス笑ってる…。

「ねえ…レンあたしの隣にいるお方はもしかすると…」

「え？僕かい？僕はね」

「天野ウミ…先輩…ですよ？」

「え？うん。そうだよ？僕、天野ウミ」

ウミ先輩は笑いながら優しく言ってくれたからあたしのテン
ションが上がって

「…え？本物？？！ねえレンっ！ウミ先輩だって！！」

なーんて事を高すぎる声で言ったら…レンにすごい鋭い目の玉で睨
まれた…。

そしたら、あたしの背筋に一瞬冷たいものが流れた…まあ…汗なん
だけどね…

そりゃ…あたしもテンション上がっちゃいますよ？

だって…ウミ先輩は学校でめちゃくちゃモテル…南波レンよりもモ
テまくる。

正直あたしは遠くからしかウミ先輩を拝んだことがないから近くで
見たら惚れるかと思った…。

そんなアホな事を思ってたら、

「ユカちゃん…あんまりレンきゅんを怒らせないでね？」

「え？今レン怒ってるの？」

ジー…っと見つめてたんだけど…

レンは正直顔を見てるだけじゃナニを考えているのかがわかんない。
だってレン…喜んだ顔はすごいわかりやすいのに…後は…全然わか
らないもん…

あたしは入学そうそう『南波レン』『天野ウミ』の名を知ったけど、
実際話すのなんて今日が初めてだし…

しかも、多分この二人はあたしの存在に今さつき知ったと思うんだ

よね…？

名前は知ってたらしいけど…

「ユカ」

「ん？なにレン？」

「お前って何でさっき逃げてたんだ？」

頭の中が真っ白になった…

…ああ…まさか…今聞かれるとは…

その事を考えてただけで吐き気がしたから考えるのを止めた…。

あたしのせいで沈黙が続いた…。

でも、そのことに気がついてくれたのかレンは

『おめえーが言いたくなかったときに言え』って頭を撫でながら優しく言ってくれた。

その事がうれしくて自然と涙が流れた…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5114z/>

あなたに会えて・・・

2011年12月17日11時51分発行